新年度にあたり　平木教育長からメッセージ

海士のにおいのする『海士っ子』を

～小・中学校教育魅力化

これからの社会は、急激な少子高齢化が進む中、益々急速な発展をしていくと言われています。今の子どもたちが大人になって仕事に就く時には65％の職業が今までにない新しい職業になっていると予想されています。また、２０４５年にはＡＩ（人工知能）が人間の知能を超えると言われ、仕事がロボット化され人に頼らない時代がすぐそこまできています。さらに世界の動きはどんどんグローバル化し、国際社会となっており、世界を視野に入れたものの考え方や対応が迫られています。

こういった状況の中で、海士町の将来の担い手である子どもたちをどう教育していくのかが大きな課題です。私たちは平成28年度から、『今後の海士の教育』のあり方について、プロジェクトチームを立ち上げ議論を重ねてきました。

そこでまず出てきた言葉が、海士への愛着と誇り、そして貢献意欲でした。海士町を持続可能にするためには、まず郷土愛を持ち海士町に貢献できる子どもたちを育成していく事が大事である。たとえこの地に定住しなくても、いつも心の中には海士町があり、いざとなれば応援する姿勢を持った、海士町を好きな子どもたちを育成しよう。そのためには海士の良さや価値を感じ認め、それを取り入れた教育をしていこう、と考えました。

『ないものはない』を掲げる海士町には、大事なものはみんなあるという発想の通り、豊かな自然、受け継がれてきた歴史や文化遺産、人との交流を大事にする人情の細やかさ、美しい景観、昔から伝わるおいしい郷土料理など、海士ならではの精神・資源がそろっています。

それを最大限に活かした魅力ある学びと、各学校の教育目標とが結びついたグランドデザインをもとに、学校経営を進めていきたいと考えています。

このことは海士町では既にふるさとキャリア教育で実践しています。が、それにもう少し磨きをかけ教育の質を高め、海士のにおいのする『海士っ子』を育てていこうというものです。

ゲームやメディアに時間を割いて一人遊びの時間が多い子どもたちが増えている現在、ふるさとの『人、もの、こと』に触れているかというと十分ではない状況があります。将来の海士を見据えた時、これでよいのでしょうか。例えば、後鳥羽上皇のことなら人に語ることができるし和歌も覚えている。あるいは海のことなら魚の名前もいえるし、サザエやアワビは採る技術が身について料理もできるなど、生きて働く知識・技能を習得し、海士の特色を身につけた人を育成する事が大事ではないでしょうか。

そういった考え方や方向性を、学校のみならず、保護者や地域の人が一緒になって共有しながら連携・協働していけば、新しい時代に応じた子どもたちを育むことができるに違いないと思っています。ひと昔前のように、ここにいても何もないから海士から都会へ出て一旗揚げるという発想を変え、ここの価値を認め、大人が誇りを持ってこのふるさと海士のために努力する姿を見せることが肝要であると思います。子どもたちはその背中を見て育ちます。

これからの不透明な時代に向かって、主体的に課題を見つけ、様々な他者と協働しながら粘り強く立ち向かっていく力を身につけた『海士っ子』を育むために、一丸となって教育の魅力化に取り組みたいと考えています。

教育長
平木　千秋